

きぼうのいえを知っていますか。

山谷・すみだリバーサイド支援機構 代表理事「きぼうのいえ」施設長 山本雅基

行き場を失った人々の
傷ついた魂

いまこの文章を読まれているみなさんは、比較的恵まれた境遇の方が多くのではないのでしょうか？ 少なくとも、今日の食べ物に窮し、今晚の寝場所をどうしようかと案じている人ではないでしょう。しかし、豊かといわれる日本にあっても、現実には、夏は猛烈な日差しに打たれ、冬は凍死の危機にさらされ、何日も食べ物に口をできないでいる人々がいることを、ご存知だと思います。



人は10か月の間、おかあさんのお腹の中で大切にはぐくまれ、祝福されてこの世に生を授かるはず。しかし、それさえもなく、人並みの幸せに恵まれず苦難を歩んできた人がいます。また、ある時までは幸せに暮らしていたのに、病気や家庭の不和、会社の倒産、事業の失敗から、あるいは心の弱さから会社からはじき出され、苦難の道を歩むことになってしまった人もいます。



家を失った人はホームレスと言われて蔑まれ、その存在さえ疎まれ、社会に復帰するすべもなく、飢えと寒さに打たれて、人知れず孤独の中で死を迎えています。

も、もう一度社会とのつながりを回復したい、できるならば幸せだった頃に帰って家族と笑顔で食卓を囲みたいと思っています。そしてあなたかいいベッドで安心して眠りたいのです。しかし彼らの弱さを理解する支えがなかったら、ただ自分の過ちを悔い、失った家族を思い、社会からはじき出されたつらさや周りの冷たい視線の中で、人生への望みを失ってしまうのです。

そんな方々が年間何百人もいるのをご存知でしょうか。これは別に不幸を前面にして不快になってもらおうというのではなく、その事実は重いことですね、ということをご理解していただければいいのですが……。

またある人は、訪れる親戚や知人もなく、ひとり街の片隅で奥歯

傾けることは、わたしたちの人のしてのつとめではないでしょうか。

人生の実り、総まとめの時期に、あなたかいい善意の人の手で支えられながら生活していただくこと、そして自分の人生を肯定的に受け入れ、生まれてきてよかったとの思いを胸に、よい旅立ちをしていただくこと……。

手厚くもてなす心が一つひとつの魂の救いとなり、やがて世界を変えていくのです。

現在、きぼうのいえは常に満員の状態で、運営は素晴らしいボランティアやスタッフにより良い看取りのできるハウスとなっています。しかし、建物の建築に要した金額、約1億数千円は、個人の借金です。

インドのカルカッタで、あのマザーテレサが行っていることを、日本でも実現させたい、その一心で借財をし、お願いをしてみなさまのなかで、この気持ちに共感してくださるかたには、この使命の支え人のひとりとして加わっていただけますよう、募金活動をお願いしたいと思います。

募金先

郵便振替口座 00130-3-664844
または
みずほ銀行 本所支店 普通 1796118

口座名はいずれも「山谷・すみだリバーサイド支援機構」
電話 03-3875-7523 「きぼうのいえ」



をかみ締めるように、孤独に耐えながら毎日を過ごしています。そして看取る人もいないままひっそりと亡くなり、悲しい姿となって発見されることもまれではありません。

きぼうのいえは、そのような

方々でさらに人生の残りの日々にきびしい期限がついた魂にやすらぎを提供するハウスです。

ここに来られる方は皆、人生での度重なる喪失体験(失職、離婚、一家離散、死別)などの長年にわたる苦勞からくる霊的な痛み(Spiritual Pain)に深く傷ついています。

そのような方の泥のついた顔や身体をふき、その涙をそっとぬぐうこと。温かいお茶や食事でもてなし、ベッドでゆっくり休んでいただき、傷ついた魂が上げる声にもならぬ小さな叫びに精一杯耳を

